



企業の完成

令和7年3月17日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

企業の完成は企業へのすべての要求と必要性を達成し与えられる。これらがグローバルスタンダードにおける企業経営の実現である。

これは日本的経営が有する基盤がこれら基準において飛躍することなのである。日本的経営は善の経営であり、その絶対的な独自性は、日本的風土における現実なのである。

ただ理解すべきは、それらの決して先端性への迎合ではない。グローバルスタンダードにおける必要性と要求を企業において実現することなのである。これらは合理的な経営への転換であり、先端システムにおける企業経営の実現である。

また、社会責任における社会への参加、新規基準、サーキュラエコノミーや、ゼロエミッションという企業経営基準における企業の構築など、時代性とともに行うことである。

これらが有する高い利益性や製品基準は、西洋の合理的基準における企業の再構築なのである。

これらはビッグデータの管理と分析における、IT システムにおける企業経営環境を与えるとき、自動化における優れた企業経営はその完成を得るのである。

なぜならば、これらコアコンピタンスが永続するからである。企業のプレゼンスは、先端技術における企業経営において、その安定した企業経営を実現できるのである。

これらは新たな創造性への参加を与える。企業が自らの目的を希求することは、新しい時代において新たな必要性なのである。

これらが最も優れた企業環境を与え、その相乗的な影響は、プラス効果における現実を与えるのである。

これらは過去の企業努力が結果を得ることであり、ウサギと亀という寓話がこれなのである。